

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開
 ⑪ 公開特許公報 (A) 平2-155885

⑫ Int. Cl. 5
 B 62 K 11/10

識別記号 庁内整理番号
 7535-3D

⑬ 公開 平成2年(1990)6月14

審査請求 未請求 求求項の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 スクーターのフレーム
 ⑮ 特願 昭63-396826
 ⑯ 出願 昭63(1988)12月6日
 ⑰ 発明者 鈴永 敏秋 静岡県浜名郡可美村若林222
 ⑱ 出願人 鈴木自動車工業株式会社 静岡県浜名郡可美村高塚300番地
 ⑲ 代理人 弁理士 藤本 博光 外2名

明細書

1. 発明の名稱

スクーターのフレーム

2. 特許請求の範囲

前部を上方に高くしてヘッドパイプを密着した
 メインパイプの後部に、後部を両側に跨げた左右
 の補強パイプを密着し、鋼板モノコック型にした
 後フレームの前下部をメインパイプの後部と左右
 の補強パイプの上に差せて密着するようにしたこ
 とを特徴とするスクーターのフレーム。

3. 発明の詳細な説明

(差象上の利用分野)

て作られている。そして、フレーム後部は、
 漆脂製のフレームカバーで覆って体積を膨
 れ、フレームカバー内に燃料タンクやオイルタンク
 の部品を収容したり、物入れを設けている。
 が、物開用 62-286883号公報参照。
 フレームカバー内の容積には限界があり、又、フ
 レームカバー内にフレーム後部のパイプが通って
 ので、ダッドスペースが多く、大きい物入れ
 を乘けようすると、フレームカバーが大き
 く、車体寸法も大きくなってしま、重量も増加す
 部分がある。

(発明の目的)

この発明は、前部の鋼板製のメインパイプ
 端に後部を両側に跨げた左右の補強パイプを
 して左右の補強パイプの間にエンジンの前限

特開平 2-155885

ができるスクーターのフレームを得ることを目的とする。

〔発明の構成〕

以下、本発明を図面に示す実施例によって説明する。

メインパイプ1は、鋼板製で、前部を上方に曲げて高くし、前端にヘッドパイプ2を接着する。ヘッドパイプ2は、前ホークを取付けるものである。メインパイプ1の後端は、上下方向に長く長円形に延び、左端に左端パイプ3を接着する。又、メインパイプ1の後部下側には、エンジンを備えたパワーユニット4の前下部をリンク片5を介して接着するプラケット6を接着する。そして、メインパイプ1の低い部分には、フートボード7を接着するフートボード受け台を接着する。後フレーム9は、鋼板モコック型で、前下部をメインパイプ1の後部と左右の補強パイプ3の上に乗せるように合せて接着する。左右に抜けた補強パイプ3の間に、パワーユニット4のエンジンの前傾させたシリンダー10が位置す

るようにしてある。後フレーム9は、前部がい物入れ11にしてあって、物入れの上面にト12を装着する。又、物入れ11の後部に燃料タンク13などを収容するようにしてある。後フレーム9の後部は、テールカバー14で後端には、一連に見えるようにテールランプを取付ける。

〔発明の作用〕

後フレーム9は、メインパイプ1とその後に接着した補強パイプ3に合せて構成する。前後長さを長くでき、前柱高くできる。左:補強パイプ3は、後側を左右に延びてあり、さらに、パワーユニット4のエンジンの前傾させシリンダー10を設置させるので、パワーユニット4を前側にさせて、ホイールベースを短かくできる。後フレーム9は、鋼板モコック型で、内側の容積を十分に利用できて、大:物入れ11を設けながら、燃料タンク13などを収容できて、小さいながらも利用容積:きくできる。

- 3 -

〔発明の効果〕

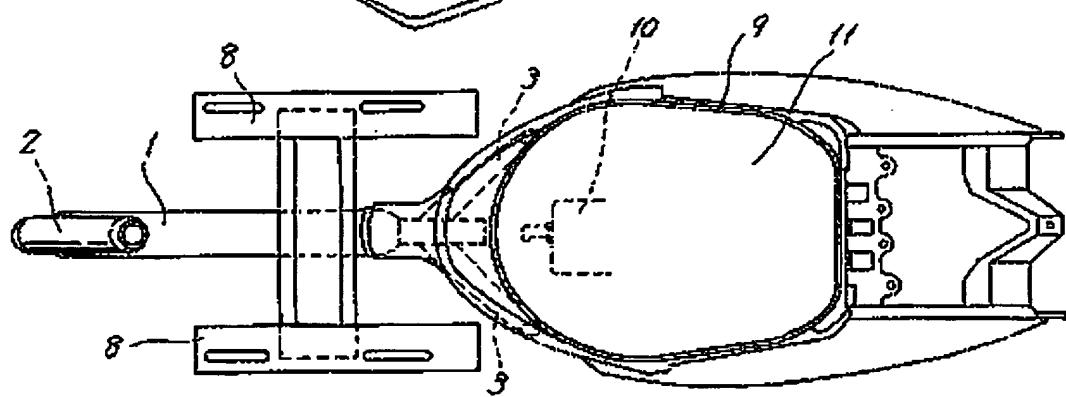
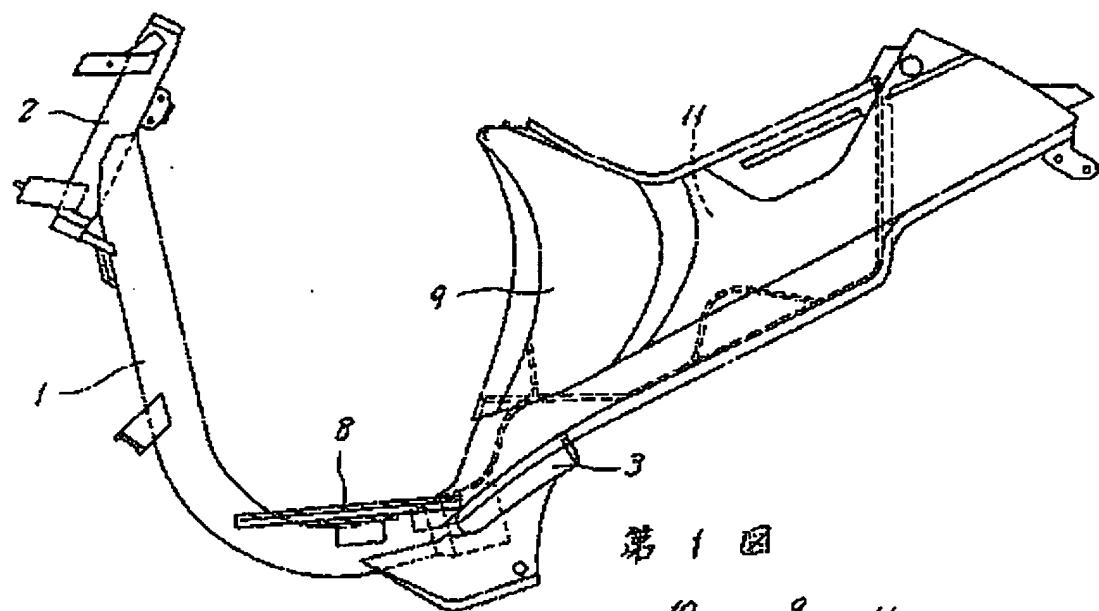
以上説明したように、この発明は、前部を上方に高くしてヘッドパイプを接着したメインパイプの後端に、後部を両側に延びた左右の補強パイプを接着し、鋼板モコック型にした後フレームの前下部をメインパイプの後部と左右の補強パイプの上に乗せて接着するようにしたので、前傾したシリンダーを左右の補強パイプの間に位置させてパワーユニットを前側に設置でき、ホイールベースを短かくでき、小型軽量にできる。そして、モコック型の後フレーム内の容積は、有効に商品接着に利用することができ、小さいながらも内部を有効に利用して、大きい物入れも設けることができて、便利にできる。

- 4 -

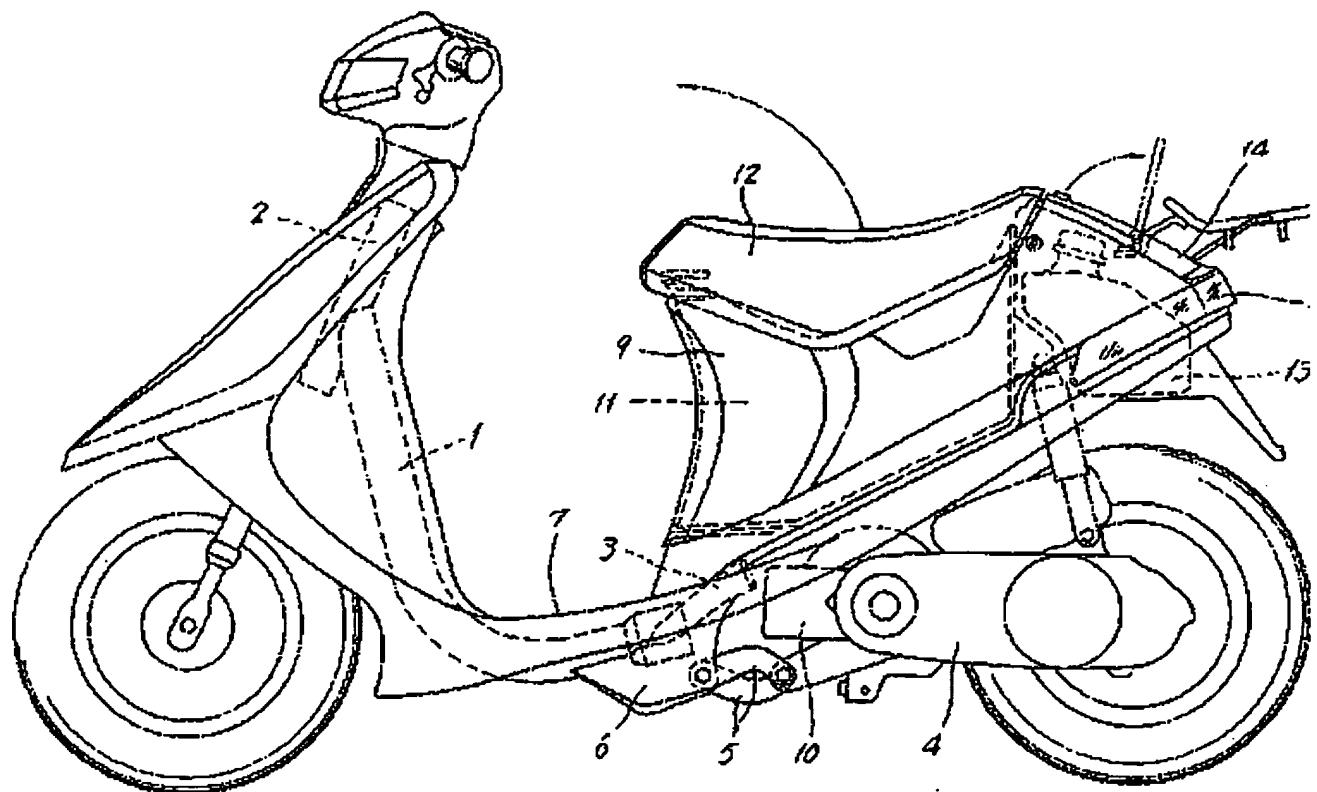
1…メインパイプ、2…ヘッドパイプ、
3…補強パイプ、9…後フレーム。

出願人代理人 段 本 博 光

特開平 2-155885(



特開平 2-155885



第 3 図